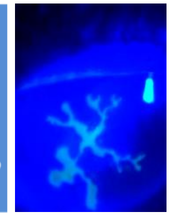
フジタガンカニュース

Vol.50 2014.11.17



ロサンゼルス結膜炎の謎を追え！❷

おおっとワトソン君…「ロサンゼルス結膜炎」の手掛かりは全くつかめないのだが…とにかく今は「血液のアレルギー検査が陰性の人の中にも実はアレルギー性結膜炎の人がいる」という情報の調査を継続するしかないぞ！おお、そういえば君はドクターだったな！(☜後ほど※1 として解説します)じゃあ、君に任せて安心だな！宜しく頼むぞ！ワトソン君！おおっと、君はそそっかしいからな！焦らないでいいぞ！まずは 49 号のフジタガンカニュースを復習してから続きの調査に臨んでくれたまえ！@@

ちなみに、詳細はあまりにも専門的すぎるので割愛しますが、AW 陽性例全症例中 23%で ICR が全項目陰性でした。かなり多いと思いませんか？また、その理由は①AW は検出感度がすごく良く、弱いアレルギー反応でも検出してしまうので血清では陰性になる、か②アレルギー反応には局地性(局在性でしょうか？)があり、特定の部位のみでＩｇＥが上昇して反応を起こすようなことがありうる、だと思うのです。実は今回の自験例では ICR が全部陰性なのに AW が強陽性の症例もあり、という事は②の仮説が支持される？ような気もしています。例えば蕁麻疹なんかは元来Ｉ型アレルギーの代表選手な訳ですが、最近の皮膚科学会的には「非アレルギーの蕁麻疹もあり」が通説となっているようで…こうした事が「血清の IgE 上昇無し」をメルクマールとしているのなら、実は局地性の高いアレルギー反応なのかもしれない…なんて壮大な事も密かに考えております。

また、この「血清ＩｇＥ値が上昇しないアレルギー性結膜炎患者さん」についての議論を進めるにあたり、一定の病名が必要だと思われます。私からの提案としてそれを「藤田氏病」と呼ぶ事も考えた(笑)のですが…流石にそれではなんだか意味が不明なので「Limited Allergic Conjunctivitis=LAC」という病名を提案したいと思っています。未だ私以外の眼科の先生は誰一人として納得していない件ですが(仲良しの後輩の先生に話をしたら、苦笑いをしたままノーコメントでした)、私としてはこの「LAC(ラック)」という病名を推していきたい所存であります。さらに言うと「LAC」って覚えにくいですよねー？「LA」といえば「ロサンゼルス」、通称を「ロサンゼルス結膜炎(笑)」というのはどうかな？と。「印象に残りやすい」と思うんですけど、流石にロサンゼルスとは何の縁もないですからね…。(←あくまでも冗談としてですよー(^▽^;))

結局何が言いたいかというと、内科や耳鼻科で「貴方にアレルギー反応はありません」と診断された方の中にも、眼に愁訴(涙目・充血・痒み・メヤニ・ゴロゴロ感など)がある方の中にはアレルギー性結膜炎の方があって、その頻度は 23%もあるんだよという事で、その病名が「ラック(≒ロサンゼルス結膜炎)」となる訳です。

さて、この話が我らが「フジタガンカニュース」の読者の皆様にどう関連するのか？と言いますと…「自分にはアレルギー体質がない」と信じ込んでいる患者さんの中にも、一定の割合で「アレルギー体質の患者さん」がいるという事ですよね。元の診断が誤診の場合、一番多いのは「ドライアイ」でしょうか？当院で多いケースは「他院でドライアイと診断され点眼を処方されたが改善に乏しく、セカンドルック目的で当院を受診した」ケース等です。ご本人は自分が「ドライアイ」と診断してしまっています。実際、ごく軽症のドライアイとしては診断基準にも当てはまってたりします。しかしドライアイの病状がさほど深刻でなく、自覚症状と所見がかみ合わなかったりします・・・僕はこんな時にはまずアレルウオッチを行います。しかもこれでアレルギー性結膜炎が証明され、治療の方針をアレルギー反応中心の処方に切り替えると…かなりの高確率で症状が改善する！という訳なのです。どうでしょう？結構面白いと思うのですが…患者さんからすれば溜まりませんよね、スミマセン m(__)m。ちなみに、ドライアイと誤診をされている患者さんの真の病名の中で、アレルギー性結膜炎に次いで多いのが眼精疲労なのです。意外でしたか？個人的にはこうした考えで診療を行っていますが、一事が万事そういう訳でもありません。たまに「本物の重症ドライアイ」に遭遇する事もあり…医師として常に「もしかしたら誤診をするかもしれない」という気持ちで真摯に診療に向かうという姿勢が大切という事でしょうか？私がこんな発言をすることも逆に「軽はずみ」と叱責を受けそうですが…中々難しいものですよね…(^▽^;)。@@@

そうか…そういうことだったのか！やったな、ワトソン君！これでこの謎は解決だな！…という訳で(笑)、探偵ごっこはココで終了です！「ロサンゼルス結膜炎の謎」…ご理解頂けたでしょうか？ちなみに、本文中でも強調しておりますが、この病名は私以外の眼科医は「全く容認していない病名」です！私が勝手に提案をしている「エセ病名」です！間違っても他の眼科医、他科の先生方には内緒でお願いします。もしもお伝えしたとしても「理解不能」と反応されちゃいますヨ！気を付けてくださいネ！

※1 追記です。皆さん「シャーロックホームズ」という小説の登場人物の「ワトソン博士」ってご存知ですか？実はお医者さんなんですよね。ウィキペディアから引用してみましょう…

ジョン・H・ワトスン（John H. Watson）は、アーサー・コナン・ドイルの推理小説『シャーロック・ホームズシリーズ』の登場人物。軍医の後開業医となった。名探偵シャーロック・ホームズの友人であり、伝記作家。ホームズシリーズのほとんどの作品は、ワトスンが書いたことになっている。日本語ではワトソンと表記されることも多い。

…なのだそうです。元は軍医さんで…後々は開業医さんなんですね。なんか、個人的にはいつもシャーロック･ホームズにたしなめられていて、ちょっとオッチョコチョイで失敗ばかり(ホームズが高慢ちきな態度の印象って事もあるかもしれませんけど(笑))…っていうイメージだったんですけど…。いやー子供の頃に読んだ小説の記憶なんて、アテになりませんなあー　(笑)。

今月のお知らせ

以前にもお知らせしておりますが、非常勤の先生が診察を担当する日程は
❶毎水曜午後を朝岡亮先生(東京大学眼科講師・専門：緑内障)
❷第1・3(・5)週目の土曜を小竹修先生(八王子医療センター・専門：網膜疾患)
となります。また、今年の年末・年始の休診予定は下の表の通りです。今年もいよいよ師走ですね。皆様何かとお忙しいとは思いますが、宜しくお願い致します。

年末・年始休診スケジュール

	12/27	12/28～1/4	1/5
AM	○	×	○
PM	×	×	○

※×・・・休診　○・・・通常診療

携帯サイト用QRコード mobile phone

スマートフォン iPhone用QRコード smart phone

http://www.fujita-ganka.com

FUJITA-EYE-CLINIC
藤田眼科
エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)
F-Vision

✆042(645)0575
✆042(642)2911